

吉岡ロゴテック

縁起箸で日本商議所会頭賞

眼鏡にブランド名や品番を刻印する特殊印刷加工の「吉岡ロゴテック」（福井市、吉岡敦之社長）が企画、開発した縁起箸が、本年度の全国推奨観光土産品審査会「工芸の部」で、日本商工会議所会頭賞を射止めた。東北発祥の七転び八起きの縁起物「起き上がり小法師」のように、転がっても絵柄が常に上を向く「前向きさ」が特徴だ。

（北原愛）

名付けて「起き上がり個箸」。ユニークな動きは、内部に金属の棒を入れて重心を調整しているため。福井市の眼鏡メーカーが協力し、眼鏡枠製造技術を応用。耐熱樹脂を成形する際に金属芯を押し込んだ。

「七転び八起き」の縁起物をモチーフにした「前向きさ」が特徴だ。樹脂の上に下村漆器店（鯖江市）が漆を塗り、伝統工芸士が仕上げた。そこに吉岡ロゴテックの特殊印刷加工技術で、空襲や大震災を乗り越えてきた福井市の象徴「不死鳥」や、縁起物のたるまを描いた。



福井の吉岡ロゴテック 眼鏡と漆器の技術融合

審査会は、日本商工会議所や全国観光土産品連盟が主催。「郷土色が豊かでデザインが優れている」など七つの基準で審査した。出品数は工芸の部と民芸の部で計百五十一点。

同会頭賞は最高の経済産業大臣賞に次ぐ賞で、十一日に入賞の報を受けた吉岡社長は「福井伝統の眼鏡と漆器の技術の融合が評価された」と喜んだ。

無病息災や家内安全など、人生の苦難を乗り越えよつという前向きな願いを込めた贈り物や、「起き上がりは、寝たきりにならない」に通じることから、お年寄り向けのギフトにも最適という。

来年一月には、自社サイト（「吉岡ロゴテック」で検索）で売り出し、県内の土産物店や全国の百貨店へ販売網を広げる。価格は二膳一組で一万四千七百円。